

プロジェクト課題No.4



仙南たまねぎの環境に配慮した栽培方法による生産拡大

- 計画期間 令和5年度～令和7年度
- 対象名及び対象数 JAみやぎ仙南たまねぎ部会17人
(その他たまねぎ生産者および新規作付希望者)
- チーム員 ◎澤里昭寿、千葉奈穂子、阪本松男、伊藤和子、庄子正秀、菅野雪子
- 連携機関 宮城県農業・園芸総合研究所 園芸環境部・野菜部

1. 課題の背景

【これまでのたまねぎ生産状況】

令和元年10月	JAみやぎ仙南たまねぎ部会設立 → 国庫事業（産地生産基盤パワーアップ事業）機械化一貫体系
令和元～令和4年産	出荷量 60～80t / 販売額 約400万円前後で推移
令和3～4年度	プロジェクト課題「機械化一貫体系の導入によるたまねぎ産地の拡大」

■課題

※収量・品質の伸び悩み



▽作型、病虫害防除、雑草対策など
部会共通の体系の確立と実践

◎「収量・品質の向上」



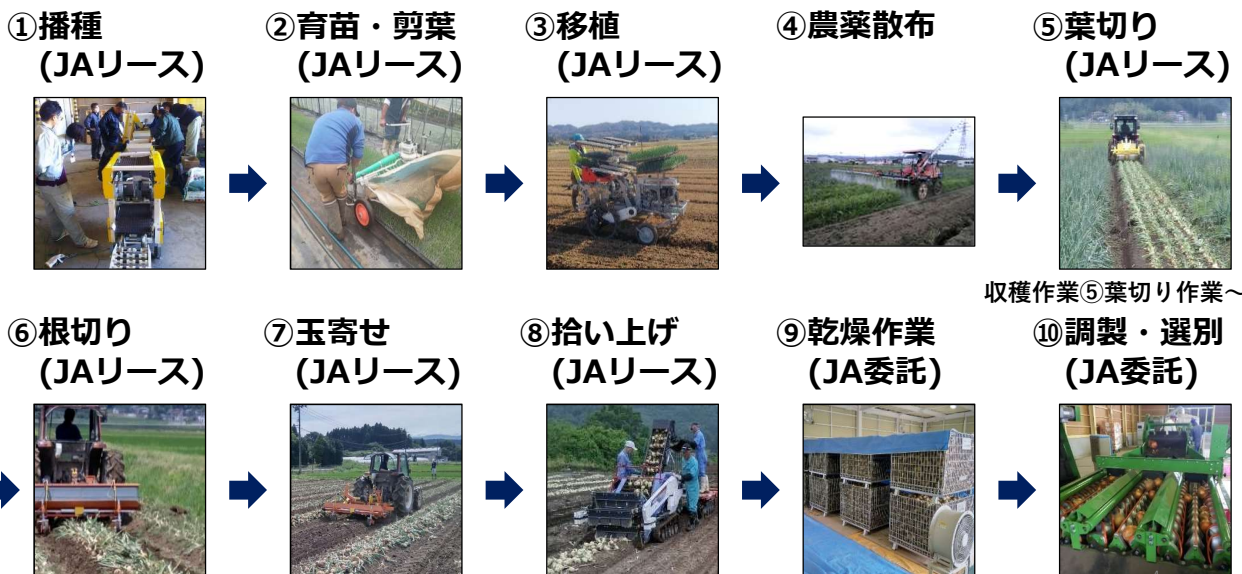
2. 対象者の概要

J Aみやぎ仙南たまねぎ部会 + その他たまねぎ生産者および新規作付希望者

- 生産者数 令和6年産 15経営体（うち みやぎ仙南たまねぎ部会員14）
- 作付面積 約6.6ha
- 作 型 秋まき（8月播種→10月定植→6月収穫） ※県内の基本作型
 晩秋播き（11月播種→3月定植→7月収穫） ※他作物と年2作可能

作型	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
秋播き栽培	[播種] (病害虫・雑草防除)															[収穫]			[は種・育苗]			[定植]			[は種・育苗]			[定植]								
晩秋播き栽培	[定植]			[播種] (病害虫・雑草防除)			[収穫]			[は種・育苗]			[定植]			[は種・育苗]			[定植]			[は種・育苗]			[定植]			[は種・育苗]			[定植]					
水稻栽培	[は種・育苗]			[田植え]			[出穂]			[収穫]			[は種・育苗]			[田植え]			[出穂]			[収穫]			[は種・育苗]			[田植え]			[出穂]			[収穫]		

〔参考〕たまねぎ機械化一貫体系



3. 活動目標と活動事項

〔令和6年度〕

■ 定性的目標

- 病害虫雑草防除の徹底による収量・品質の向上が図られる。
- リビングマルチや生分解性マルチを活用したたまねぎ栽培への理解が図られる。

■ 定量的数値目標

○目標収量3.5t/10a達成者割合

	R4 (現状)	R5	R6	R7
目標	27%	40%	50%	60%

■ 活動事項

- ①【生産技術向上】病害虫雑草防除を中心とした栽培体系の技術実証の習得支援および適期作業の実施指導
- ②【グリーンな栽培体系】リビングマルチや生分解性マルチを活用したグリーンな栽培体系の技術実証
- ③【たまねぎ部会支援】たまねぎ部会活動の活性化による営農意欲の向上支援および新規作付誘導支援

4. 活動状況とこれまでの成果①

〔①病害虫雑草防除を中心とした栽培体系の技術習得支援〕

■ 栽培講習会や巡回による栽培管理技術の指導・支援

- ・ほ場管理や病害虫防除に対する生産者の理解が深まった
- ・病害虫（特にべと病）と雑草が一部ほ場で春先から発生
→R7作は防除体系を改善し、定植後からの防除を徹底する。



仙南たまねぎ通信

令和6年度第1号
JMA仙南支所
たまねぎ部会事務局より

○今号の栽培講習 (指導員報告)

(1) べと病
・たまねぎの栽培講習、今年、全農協(仙南支所)から、
・たまねぎの栽培講習(10月~11月)に10回開催された。参加者数は、
・講習会(指導員報告)の開催、指導員(指導員)の指導、
・講習会(指導員報告)の開催、指導員(指導員)の指導、
・講習会(指導員報告)の開催、指導員(指導員)の指導、
・講習会(指導員報告)の開催、指導員(指導員)の指導、

項目	今年	昨年	前年	前々年	前々々年	前々々々年
講習会開催回数	10	10	10	10	10	10
講習会参加人数	100	100	100	100	100	100
講習会開催日時	10月10日	10月10日	10月10日	10月10日	10月10日	10月10日
講習会開催場所	仙南支所	仙南支所	仙南支所	仙南支所	仙南支所	仙南支所
講習会開催内容	講習会	講習会	講習会	講習会	講習会	講習会
講習会開催者	講習会	講習会	講習会	講習会	講習会	講習会

(2) べと病対策
・たまねぎの栽培講習、今年、全農協(仙南支所)から、
・たまねぎの栽培講習(10月~11月)に10回開催された。参加者数は、
・講習会(指導員報告)の開催、指導員(指導員)の指導、
・講習会(指導員報告)の開催、指導員(指導員)の指導、
・講習会(指導員報告)の開催、指導員(指導員)の指導、
・講習会(指導員報告)の開催、指導員(指導員)の指導、

4. 活動状況とこれまでの成果②

〔②リビングマルチや生分解性マルチを活用したグリーンな栽培体系の技術実証〕

■リビングマルチによる

ネギアザミウマ抑制効果を確認！

(慣行区 (マルチ無し) と比較して)

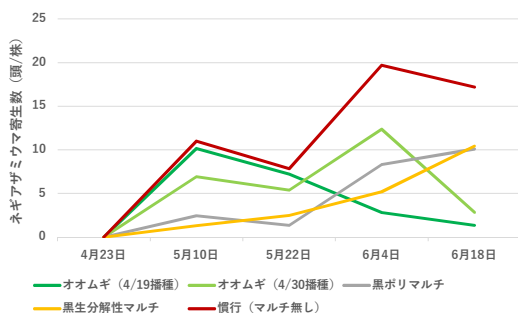


図 ネギアザミウマ数の推移 (R6)

リビングマルチによる害虫抑制効果

【直接的効果】

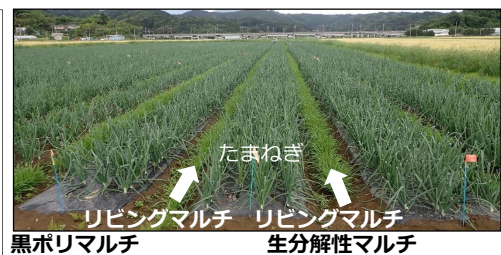
- 障壁効果
- 視覚的阻害
- 嗅覚的阻害

【間接的効果】

- 天敵生物による抑制効果 (天敵誘因・温存効果)

リビングマルチ

主作物 (たまねぎ) と混作または間作し、雑草抑制などをねらい栽培される植物、または、その技術。



4. 活動状況とこれまでの成果③

〔②リビングマルチや生分解性マルチを活用したグリーンな栽培体系の技術実証〕

■令和6年産たまねぎ 生育・収量・品質

○慣行栽培 (無処理区) に比べ、

- 生分解性マルチ・黒ポリマルチ区で球重が増加
- リビングマルチ区の製品化率が高い (慣行同等)

* 環境にやさしい栽培方法として普及の可能性あり!



表1 たまねぎ実証ほ収量

試験区	球重 (g)	球径 (cm)	製品化率 (%)	収量 (t/10a)
生分解性マルチ	146.3	6.5	83	1.7
黒ポリマルチ	163.8	6.8	72	1.5
リビングマルチ	126.8	6.3	92	2.0
無処理	135.9	6.5	92	2.2

* 耕種概要: 品種「もみじ3号」、11/17播種、3/19定植、栽植密度21,792株/10a

* 6/19収穫、パイプハウス内で自然乾燥後、7/11調査

* 製品化率: 収穫時の腐敗、カビ、奇形等を除いた割合



4. 活動状況とこれまでの成果④

〔③たまねぎ部会活動の活性化による営農意欲の向上および新規作付誘導支援〕

■今後の生産拡大の実現に向けて…

* 収穫後の作業工程（乾燥、調製、選別作業）の処理能力増加について、JAみやぎ仙南と継続的に話し合いを行っている

・現状の所有施設のフル活用

・サプライチェーン事業の活用による外部委託について具体的な方法を模索中



* 管内のほ場整備事業の高収益作物として新規導入を計画する地区について、関係機関と連携しながら生産開始を支援していく



5. 今後に向けて

〔令和7年産たまねぎ生産に向けて〕



① 栽培体系の習得支援

→生産体系の改善（育苗・病害虫・雑草）の技術指導・支援による単収向上

② グリーンな栽培体系の技術実証

→グリーンな栽培体系のマニュアル化（動画、資料）、普及に向けた産地戦略の策定

③ 部会活動の活性化および新規作付誘導支援

→「たまねぎ通信」など積極的な情報共有、ほ場整備を見据えた新規作付の指導・支援

目標収量3.5t/10a 到達割合の増加を目指す

令和6年度普及指導活動中間検討会

プロジェクト課題No.4

仙南たまねぎの環境に配慮した栽培方法による 生産拡大

- 計画期間 令和5年度～令和7年度
- 対象名及び対象数 JAみやぎ仙南たまねぎ部会17人
(その他たまねぎ生産者および新規作付希望者)
- チーム員 ◎澤里昭寿、千葉奈穂子、阪本松男、伊藤和子、庄子正秀、菅野雪子
- 連携機関 宮城県農業・園芸総合研究所 園芸環境部・野菜部



終わり